

令和3年度 第1回芦屋市立図書館協議会

日 時	令和3年10月18日（月）14時～15時30分	
場 所	図書館本館2階集会室及びオンライン	
出席者	委員長	枝元 益祐
	委員長代理	高橋 孝子
	委員	長谷川 雄彦
	委員	大竹 まや
	委員	松川 圭子
	委員	大和 靖枝
	委員	能勢 広茂
	事務局	福岡教育長，中西社会教育部長，鈴木館長，古川管理係長， 宮田利用サービス係長，管理係：石田
欠席者	委員	中村 仁美
会議の公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開	
傍聴者数	0人	

1 会議次第

- ① 新委員の委嘱について（委嘱状の交付）
- ② 令和2年度事業について（報告）
- ③ 電子図書館の開始について（報告）
- ④ その他

2 提出資料

令和3年度芦屋市立図書館協議会 資料

3 審議経過

(鈴木館長) それでは、芦屋市立図書館協議会を開催いたします。今回の会議は、新委員の方々にお集まりいただいておりますので、委員長が決定するまで、会の進行は、事務局が務めさせていただきます。

本日の委員の出席状況でございますが、高橋委員より遅れて出席するとの連絡をいただいております。現在、委員定数8名中6名の委員が出席されています。芦屋市立図書館設置条例施行規則第33条第2項により過半数以上の出席で成立となっておりますので、本協議会は成立しております。

なお、本日の協議会の内容は原則公開と考えております。また、芦屋市のホームページ等に掲載する会議録作成のため、録音をさせていただきたいと思っておりますので、ご了承ください。

それでは委員の委嘱をさせていただきます。

今般の状況もございますので、委嘱状についてはオンライン参加の方は事前にお送りさせていただき、この場にご参加の方は机上に配布させていただきました。よろしくお願いいたします。

(鈴木館長) それでは、教育長よりご挨拶させていただきます。

(教育長挨拶)

(鈴木館長) 次に、委員の皆さまに自己紹介をお願いしますでしょうか。

(委員自己紹介)

(鈴木館長) ここで、図書館協議会の委員長と委員長代理を決めたいと思います。

まず委員長については、枝元委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声起こる。)

(鈴木館長) それでは、枝元委員を委員長といたします。

枝元委員長、ご挨拶をお願いします。

(枝元委員長挨拶)

(鈴木館長) 委員長が決まりましたので、これより協議会の進行は枝元委員長にお願いいたします。

(枝元委員長) それでは、次に委員長代理を決めたいと思います。
私が指名することにご異議はございませんか。

(委員一同) 異議なし。

(枝元委員長) ご異議なしと認めます。それでは、委員長代理は高橋委員にお願いいたします。

(鈴木館長) 高橋委員は現在不在の為、後ほどご挨拶と委員長代理就任へのご同意を伺います。

(枝元委員長) 本日、協議会の傍聴をされる方はおられますか。

(鈴木館長) 今のところございませんが、傍聴の方がお見えになりましたら、諮らせていただくこととなりますので、よろしく申し上げます。

(枝元委員長) その時は、ご報告いただきたいと思います。よろしく申し上げます。
それでは、次に「2 令和2年度事業について」、事務局より説明をお願いいたします。

[事務局より説明]

(枝元委員長) この件についてご質疑、ご意見はございませんか。

(松川委員) 年報10ページ、「8 主催行事」に記載の月間定例行事、「こどもの本の研究会」と「おはなしの研究会」は広報などで周知して開催されたものを計上していますか。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、広報などを通じて市民の方々に傍聴や会の参加を呼びかけることはできませんでしたが、関係者のみの開催は両方合わせて17回ほど開催しておりました。

(鈴木館長) そのとおりです。

(能勢委員) 年報11ページ「2 各種指標」に記載されていますが、阪神間の各市と人

口などを考慮した比較では、芦屋市の特に優れている点や課題などはございますか。

(鈴木館長) 詳細については、まだ分析できておりませんが、図書購入費は人口規模が同等の市と比較すると特に劣っていることはないと考えております。

(能勢委員) また各種比較検討していただければと思います。

それ以外の指標は今年度のみの数値を記載されているものが多いですが、市民が比較しやすいように、可能であれば前年度分の指標も併せて記載していただきたいと思います。

(鈴木館長) 検討いたします。

(能勢委員) 年報4ページの「4 その他の資料の所蔵状況」に「デイジー図書」という表記がありますが、この表記だけでは市民には何のことか分かりにくいので、「デイジー図書(デジタル録音図書)」と記載していただきたいです。

(鈴木館長) 改善いたします。

(枝元委員長) 次に「3 電子図書館の開始について」に移ります。事務局より説明をお願いいたします。

[事務局より「令和3年度事業計画の報告及び3 電子図書館の開始について」説明]

(枝元委員長) この件について、ご質疑、ご意見はございませんか。

(能勢委員) 小学校への出前授業はどういった内容のものですか。

(鈴木館長) 主に図書館の利用案内です。どのような種類の本が所蔵されているか、本を借りるにはどうすればよいかなどです。

(能勢委員) 時間はどのくらいですか。

(鈴木館長) 日程や授業時間によって差異はございますが、説明のみの日もありますし、手のひらサイズの「ミニ本作り」の体験などをしてもらうこともあります。

(能勢委員) 何クラスごとに行っていますか。学年全体ですか。

(鈴木館長) 学年全体です。

(能勢委員) 一度に行っているのですが。

(鈴木館長) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場の広さや児童の人数によって異なりますが、1クラスごとに行っている場合もありますし、一度の授業で1学年全員を対象に行ったこともあります。

(能勢委員) 出前授業の感想はどういったものがありますか。

館内に感想を掲示しておりますが、「楽しかったよ。」というような意見が多かったように思います。

(能勢委員) 図書館見学をされるのは、小学3年生でしょうか。

(鈴木館長) 基本的には小学3年生の社会見学先として受け入れしておりますが、10月19日に来館するのは、小学2年生です。

(能勢委員) 図書館見学に代わるような動画等のインターネット配信などはされていますか。

(鈴木館長) 出前授業の際は、事前に撮影した館内の写真をもちいて紹介しました。

(能勢委員) 何かインターネットで図書館の中が見られるサービスはされていますか。

(宮田係長) 昨年度は3年生の見学ができなかったため、本市教育委員会学校教育課の職員と協同で動画を作成し、YouTubeに配信しました。かわいらしい手人形(パペット人形)を用いた人形劇のような形式で、児童に対して図書館を案内する内容となっております。

(能勢委員) YouTubeで動画を見ることができて、出前授業や図書館見学もされており、子どもたちにとっては非常に興味のあることでいい機会だと思いますので、ぜひ続けていただきたいと思います。

(枝元委員長) 私から1点、電子図書館についてお尋ねします。これは手持ちのスマホで利用可能ですか。専用ブラウザなどをインストールする必要はありますか。

(鈴木館長) お持ちのスマホで利用可能です。特別なブラウザをインストールする必要はございません。

(枝元委員長) 電子書籍(コンテンツ)を販売しているところは、特定のブラウザを使って閲覧する権利を売っています。その会社が倒産すると、その電子書籍(コンテンツ)が閲覧できなくなるということが多発しておりますよね。図書館でそうならないようにと思っていたのですが、大丈夫そうで安心しました。ありがとうございます。

(枝元委員長) 次の議題、「その他」に移ります。何かございますでしょうか。

(古川係長) 先ほど事務局からご紹介しました行事、「niwa-doku」及び「芦屋市制施行80周年記念事業 図書館スタンプラリー」の案内チラシが委員のみなさんのお手元にあります。

これらは案の段階ですが、何かご意見等ございましたら、後日でも構いませんので頂戴したいと思います。

(能勢委員) 「niwa-doku」、「図書館スタンプラリー」は、これまで実施したことがありますか。

(古川係長) 「niwa-doku」に関しては、昨年度は中止していますが、今回が4回目の開催でございます。

「図書館スタンプラリー」に関しては、市制施行80周年記念事業として、昨年、新型コロナウイルス感染拡大予防のため実施できませんでしたので、今回が初めてです。

(能勢委員) 「niwa-doku」に関してこれまでの開催経験から、良かった点や改善すべき点などはございますか。今回はこんな風に変えてみたとかあるのですか。

(石田管理係員) これまでの「niwa-doku」開催の報告ですが、2017年度(平成29年度)は秋、2018年度(平成30年度)は春、2019年度(令和元年度)は秋に開催しました。

直近の2019年度(令和元年度)は、2017年度(平成29年度)と比較すると、開催当日に同時開催される他のイベントが少ないため、来場者数の減少を心配しておりましたが、これまでの開催年度と比較して特に来場者数に変化はありませんでしたので、開催を重ねるごとに皆様に周知されていったと考えています。

2021年度（令和3年度）については、初のコロナ禍での開催になります。お庭で読書をするものの他、「本の交換会」、ボランティアの方による「絵本の読み聞かせ」などのサブイベントもごさいますので、来場者の方に安心して参加していただけるように、開催まで美術博物館や谷崎潤一郎記念館と協議してまいります。

（古川係長）「n i w a - d o k u」は、屋外のイベントでございませう。庭で本を読むことについては、距離をとって実施するため、新型コロナウイルス等の感染の心配は少ないと考へていませう。

本の交換会、青空のらくがき帳については、万一の接触感染が気になるところでありますが、読書についても、本の表紙のフィルムコーティング部分に消毒作業を随時行うことや、密を発生させないなど、イベントの方法を検討しているところだす。

（能勢委員）これらの「スタンプラリー」や「n i w a - d o k u」は、市の広報紙などに掲載されませうか。（「はい」の声おこる）一般の方にとっては市の広報紙は重要な媒体だすので、うまく活用していただきたいと思ひませう。

（古川係長）広報あしや11月号に掲載予定だすので、10月の末ぐらいから各ご家庭に配布されることになリませう。

（能勢委員）図書館に来る方は、図書館に来て色んな案内を知ることができませうわけだすですが、図書館に来ない方には、このようなイベントを知ってもらって来てもらうことが大事だと思ひませうので、これに限らず、積極的に市の広報を使っていただきたいと思ひませう。

（鈴木館長）補足だすですが、「広報あしや」だけでなく、図書館ホームページにも公開します。また市立の各学校園へ案内を配布予定でございませう。

（枝元委員長）ほかに、ご意見、ご質問、そのほか何でもご発言はございませうか。

（松川委員）電子図書館の導入経緯について伺ひませう。どのようなニーズがあつて開始されるに至ったのでございませうか。おそらくコロナ禍だから導入されたのかなと思ひておりませう。神戸市立図書館も電子図書館のサイトがありますが、同一のものなのでございませうか。選書や蔵書を管理するのは図書館の管轄外なのでございませうか。電子図書館を取りまとめているところがあるのか、電子図書館について詳しく教えていただきたいと思ひませう。

（鈴木館長）電子図書館は、図書館に来館されなくても、お手持ちの端末で電子上の書籍

を貸出、返却できるサービスです。音声読み上げ機能もあるので、障がい者サービスの充実や、コロナ禍においては、非来館型サービスを実施できることから導入しました。また、電子書籍（コンテンツ）のため、書籍の保管場所が不要であるなどのメリットもごさいます。

電子図書館のデメリットとしては、パソコンやタブレットなどの端末を用意しなくてはならないことと、紙の書籍に比べて電子書籍（コンテンツ）が少ないことです。また、人気の電子書籍（コンテンツ）を購入すると高額になることや、電子書籍（コンテンツ）によっては、購入後、閲覧回数、閲覧可能期間に制限があるものがあります。

他市の図書館も電子図書館を導入しておりますが、それぞれの図書館において導入し、管理しています。

（古川係長）補足ですが、神戸市さんと同じ電子図書館なのかというところでごさいます。サービスを提供している会社は本市と同一の事業者でございます。つまりフレームは同じですが、電子書籍（コンテンツ）の蔵書については、それぞれの図書館が選書し、購入しているものです。同一の事業者が提供しているサービスであるため、使用方法はほとんど同じものと考えております。

（松川委員）それでしたら、電子書籍（コンテンツ）があれば、電子書籍（コンテンツ）のリクエストをして購入していただける可能性がありますか。

（古川係長）電子図書館の資料は、紙媒体の資料と比べて、ラインナップがかなり違います。高額であることや提供している書籍数に限りがあり、せつかくリクエストを頂いても、電子書籍（コンテンツ）自体が存在していないことなどが考えられるため、電子図書館の資料のリクエストに関しては、現在のところリクエストの受付を見合わせております。

（松川委員）個人的な感想では、絵本の電子書籍（コンテンツ）は必要あるのか疑問に思っています。絵本は読んであげるものと思っていますので、電子書籍（コンテンツ）でも大人が介していればよいのですが、幼児の子どもたちが一人で電子書籍（コンテンツ）を読むということでは、自分の中で電子書籍（コンテンツ）の使い方に納得がいていないという状況です。

（古川係長）絵本の読み上げ機能は、電子機械で作成した機械音声とプロのナレーションによる人間の声で読み上げるものの2通りございます。

また、紙芝居のように画面が切り替わる機能がついている電子書籍（コンテンツ）もご

ざいます。

ご指摘のとおり、本市図書館も読み聞かせ行事などをボランティアの方々のご協力を頂いて実施しておりますが、この電子書籍（コンテンツ）がそれらの完全な代替となるものだとまでは考えておりません。

しかしながら、コロナ禍で来館できない方や遠方の方などがおられることから、色々なニーズに少しでも対応したいという思いから、導入しているものです。

（能勢委員）電子図書館の電子書籍（コンテンツ）内の絵本の利用状況はどの程度利用されていますか。

（宮田係長）詳細は資料をご用意できていないため、わかりかねますが、電子図書館トップページ画面内に「おはなし絵本」という読み上げ機能がついている電子書籍（コンテンツ）をとりまとめたページがあります。

一見すると、その特集は他の特集ページと比較すると「予約」や「利用」いただいていますので、一定、需要があると考えております。

（能勢委員）電子図書の読み上げ機能のある絵本を借りてみます。

（古川係長）トップページに「おはなし絵本」というタグをつけておりますので、この特集ページ内の電子書籍（コンテンツ）は人間の声で読み上げることができるものを集めております

（能勢委員）私も今まで電子図書というものをあまり利用したことがなくて、8月に電子図書館がオープンしてから2冊借りました。最初は知らなかったのですが、読み上げサービス機能がついているということで、聞いてみましたら、電子音といますが、非常に平板ではありますが、それなりに聞くことができるなと感じました。視覚障がいの方などが活用できるのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

（大竹委員）視覚障がいをお持ちの利用者さんは、ご高齢の場合が多く、CDが使えず未だにカセットテープを利用されている方がおられます。

このようなインターネット上の電子図書館のサービスを利用できる方は、限られると思います。

（能勢委員）逆に図書館の施設内に、再生する読み上げ機器を配備した一室を設けた場合、障がい者サービスとして需要はありますでしょうか。

(大竹委員) 図書館への来館自体がなかなか難しいことであると考えております。対面朗読をしていた当時も、手引き誘導する方と一緒に来館されていることが多かったです。

(鈴木館長) 残念ながら令和2年度は対面朗読の件数が0件になりました。ご利用者は高齢の方が多いという現状やコロナ禍による影響が大きかったと考えております。

(枝元委員長) 先ほど、委員長代理として指名いたしました高橋さまがお越しになりました。ご同意いただけますでしょうか。また、あわせて、ご挨拶をいただきたいと思えます。

[委員長代理としてご承認いただく]

(高橋委員長代理自己紹介)

(枝元委員長) ありがとうございます。

では、この協議会全体で他にご意見、ご発言はございませんか。

(能勢委員) 今、高橋委員から小学校のお話をお聞きしたのですが、小学校の図書館活用の仕方ですとか、小学生にどのように本へ興味を持ってもらうかなど、非常に関心があります。世間全般では、読書の好きな子ども達と、全く読書習慣がなく家でも読み聞かせをしないという、二極化みたいな現象になっているように感じます。朝日ヶ丘小学校の取り組み、あるいは学校によっては朝の読書時間など設けられているかと思いますが、そういった取り組みをお聞かせください。

(高橋委員長代理) 朝の読書タイムは、かなり前から取り組んでおります。朝、みんなで学校に登校して、落ち着く時間として有効であると考えていたのですが、最近ではコロナ禍により読み聞かせのボランティアの方に来ていただけませんが、読書推進事業の一環で読み聞かせの先生に来ていただいています。本の楽しさを教師が感じないとなかなか子どもに伝えられないということがわかりました。その先生に来ていただいたときに、50冊ぐらい本を本校にお届けいただき、来校された際に2時間かけて20冊ぐらいの本の紹介をしていただきました。教科書から推薦図書のような本が出ているだけではなく、本当に楽しい本、心打たれる本があるということを教師が理解しました。これだったら子どもたちに読んであげられる、例えば、いじめの問題があった場合、こういう本を読んだらいいなど、講義じゃなく本で教えていただいたことがありました。

1年生はこの前、「世界の昔話」という授業があり、学校の図書館だけでは、数に限りが

ありますが、市立図書館から「世界の昔話」というテーマで本を選書してもらい、たくさんのお本をお借りし、教室に取りそろえることができました。そういう時に図書館の本を有意義に使わせていただいております。子どもたちはその時、適当に本を見ているようなのですが、普段、あまり本を開いていないような子が自分の興味がある本を手に取りちらちら見ているだけでも、それは子どもにとって本との出会いなので、子ども同士で友達の好きな本を紹介し合っているうちに、子どものつぶやきがいっぱいでできます。どうしたら子どもが本を好きになるかというより、本を教室に置くことや、いろんなところで本と出会うところがあれば、子どもたちは本を目にして、さまざまなことをつぶやき、友だちが紹介してくれた話やつぶやきを聞いて、「ほんまや。」とか私たちが気づかない絵や文から発想できるので、教師のほうは今、教えられているところです。私たち教師が良い本に出会わなければならないと感じていますし、そのために教師だけでは広がらないので、色々な方に教えていただけたら嬉しいかなと思います。大学の先生や、たくさんのお本をご存知である読み聞かせのボランティアの方、図書館の職員の方々に、「こんなお話の本があるよ。」と紹介していただき、その本を教室に置いてこそ、子どもが手に取って経験できていくのかなと思っています。そこで出会って、おもしろかったら次に進めるのかなと。そこに本があることが大事なのかなと日々感じています。大人がもっと本に親しまなければならぬかなという事は感じています。

(能勢委員) 学校の先生方の中にも、やはり本が好きな先生、あまり読まれていない先生がいらっしゃるのでしょうか。

(高橋委員長代理) そうですね、読み聞かせの先生が来てくださった研修で、さまざまな本を読んでもらいました。言葉よりも本のほうに力があるというか、本の読み聞かせをしてもらった、その言葉に心打たれて、とてもよかったです。先生は、ほとんど講義はなくて、何十冊も本を読んでもらいました。それは子どもも同じなのかなと感じました。

(能勢委員) 朝の読書時間は全校で行っていますか。

(高橋委員長代理) はい。全校で行っています。一週間ありますので、曜日を決めないで、そこは学年によって任されるのですが、週に何回と決めて取り組んでいます。

(能勢委員) 2年間の読書推進のモデル事業ですが、その事業が終了した後も、続けていただきたいと思います。あるいは芦屋市全体に浸透すればよいですね。

(高橋委員長代理) そうですね、私たちもいつも感じておりました、2年間だけがんばっていても意味がありません。今回、このように出会わせていただきましたので、これが当たり前のように継続していくのが一番の望みですね。

(能勢委員) 今、色々お話ができましたが、長谷川先生は神戸市の図書館にいらっしゃいましたので、そのあたりのアドバイスをお聞きしたいのですが、いかがでしょうか。

(長谷川委員) 学校連携に関して、神戸市立図書館では教科ごとに、科目のテーマごとのコンテナを作っており、それを各学校に巡回させていました。例えば、平和教育や、環境問題などの本をクラスの人数分、40冊程度の本をセットしておいて、学校に貸し出す、学校のほうは、教室ごとに巡回させていくということをしていました。神戸市の場合、小中学校あわせて270校程度ありますので、そのセットを作られる数は限られていますので、順番待ちをしていただくことになります。

現在、芦屋市立図書館では一校に対して、ひとつひとつ選書したりすることができると思うのですが、それが複数の学校になったときには、それぞれの学校に合わせて選書することは難しくなってくると思いますので、そういった意味では、あらかじめテーマに沿ったセットを作っておく、例えば、国際、平和問題の単元が来たら、このセットを貸し出ししますよという支援をしていくのがよいのではないかと思います。

(能勢委員) 芦屋市は、人口は9万5千人弱で、小学校の数も中学校の数も、図書館の施設数なども、わりと適正というか、利用しやすい環境であると思います。神戸市は大都市なので難しいところがあると思うのですが、芦屋市の場合、人口なり面積なりを考慮すると学校の数や図書館の数は利用しやすい、良い環境であると考えています。ぜひ、この協議会でそのあたりの話をできればと思いますが、社会教育部長にはそのあたりを見据えていただいて、市民、学生、生徒たちが利用しやすい図書館を、さらに活性化していただきたいと思います。

(中西社会教育部長) 読書推進のモデル事業として指定校を設定していますが、学校だけでなく図書館がどのように携わっていけるのか等を、このモデル事業を通じて取り組んでおります。

モデル事業の期間で終わらせるのではなく、市内の全小学校に向けて、少しずつ推進事業を進めていきたいと考えています。朝日ヶ丘小学校での課題をすべての小学校にフィードバックできることが、この事業のキモだと考えておりますので、そのように進めたいと考えております。

(能勢委員) モデル事業というのは2年ごとに順番に、小学校が変わっていくのですか。

(中西社会教育部長) 指導の先生に来ていただき、その費用を国や県から、負担していただき、事業を推進していきましょうということですが、そこだけで終わってしまうと、その「人」がいなくなるとその事業は終わってしまうので、それをきっかけに、そのときに作り上げたスキームであるとか仕組みであるとかを、市内の全小学校に向けて展開していくように、図書館が関わるとよいと考えています。

(能勢委員) 学校には先生がおり、図書館には司書がおり基礎的な力がありますので、それをうまく連携していくことが大事だと思います。読解力が伸びれば学力も伸びると思います。非常に良いことだと考えます。

(枝元委員長) ほかに、何かご発言、ご意見はございますか。

ないようですので、これをもちまして令和3年度第1回芦屋市立図書館協議会を閉会します。皆様お疲れ様でした。ありがとうございました。